

三隅中学校便り

～地域とともにある学校～

長門市立三隅中学校
令和5年9月20日発行
TEL: 43-0911
FAX: 43-2319

いよいよ2学期が始まりました。体育祭も暑すぎるくらいの体育祭日和の天候に恵まれ、生徒は感動的な姿を見せてくれました。生徒も達成感や充実感を味わうことができ、今後の学校生活にもつなげてくれることと思います。10月には文化祭が控えています。まさに「実りの秋」となるよう、生徒一人ひとりの活躍を期待しています。

9月



心震える

校長 山本 道夫

NBAプレーヤーである渡邊選手がワールドカップ前、「パリ五輪に出られなければ代表を引退する。」という発言をしました。今回のバスケットボールワールドカップ（沖縄開催）に対する相当な覚悟の表れだと思います。勝負というのは紙一重、日本チームも「世界一の練習」を積み重ねてきました。とはいえ、勝てる保証なんてどこにもありません。でも、日本は「積極的な守備」「速い展開」「3ポイントシュート」の3点を徹底して磨いたそうです。その苦しみはわれわれの想像をはるかに超えていると思います。そして、何よりも日本チームは「ネバーギブアップ」でした。ですから、どんな不利な状況でも「負けるかも」なんて思う選手はいなかったのではないのでしょうか。その選手の思いや姿勢が、会場の観客に伝わり、テレビを見ているわれわれにも伝わり、心震える思いを共有できたのではないかと思います。試合後のインタビューは声はガラガラ、言葉はカミカミでしたが選手の消耗度が伝わってきました。

もう一つ、心震える思いをしたのは、甲子園で優勝した慶応高校でした。注目したのはプレーの姿ではなく、応援の姿でした。テレビを見ている他の高校とは明らかに違います。慶応高校の生徒はもちろん、保護者や慶応のOB、OGが集まり、大応援団を結成しました。

バスケ日本代表チームと慶応高校に共通するのは、プレーヤーも応援する者も、なりふり構わず、結果を信じて心をひとつにし、熱く、本気だったことです。

先日、本校でも第77回体育祭を開催することができました。勝負ですから当然、「勝った」「負けた」が伴います。準備期間において、団を引っ張る生徒は、リーダーとしての苦労もあったことと思います。でも、いろいろなことを乗り越え、感動的な体育祭となりました。なりふり構わず、心をひとつにして、勝利をめざして取り組む姿には心が震える思いでした。またひとつ、みんなと一緒に大きな思い出ができたと思います。

地域ふれあい講座

8月20日（日）、親子奉仕作業の後、親子ふれあい講座が開催されました。ドローン、魚調理教室、木工、イラスト、サンドペーパーアート、フラワーアート、ネイルアート、スミージー作り、エアロビクス、ハンター中野と語る、アクティビティなど、日頃の授業では体験できないことに親子で取り組みました。



ふれあい夢通信 第71号 (2023秋号)のお知らせ

9月1日より、「ふれあい夢通信」ホームページに「第71号（2023秋号）」が掲載されました。県教育・イベント情報など、本県教育に関する様々な情報が得られますので御一読下さい。

○「ふれあい夢通信」ホームページアドレス

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/site/kyouiku/26130.html>





フォトギャラリー



『体育祭』 三中の矢 ～愛撈 全進 考動～



今後の主な行事予定

9 / 23 (土) 秋分の日
 29 (金) 専門委員会
 10 / 2 (月) 全校集会
 5 (木) 1年校外学習



10 / 6 (金) 中間テスト
 9 (日) スポーツの日
 15 (日) 三隅ふるさとまつり
 21 (土) 長門大津駅伝大会
 29 (日) 文化祭

